

番組審議会

第685回

2024年9月9日

■ 審議会の構成	委員総数	10名
	委員長	音 好 宏
	副委員長	江 澤 佐知子
	委員	尾 縣 貢 萱 野 稔 人
		喜田村 洋 一 田 中 東 子
		洞 口 依 子 長 嶋 有
		水無田 気 流 目加田 説 子

TBSテレビ 龍 宝 社 長
合 田 専 務
瀬戸口 取締役
三 城 コンテンツ戦略局長
平 田 コンテンツ制作局長
高 宮 バラエティ制作一部長
竹 永 「音楽の日」総合演出
藤 田 編成考査局長
浜 崎 カスタマーサクセス室長
満 田 番組審議会事務局長

■ 議事概要

1. 審議事項

- (1) 「音楽の日2024」7月13日(土) 14:00~21:56放送
審議対象部分；①番組オープニング ②赤坂オープニングパレード
③能登中継 ④岩手中継 ⑤19:00~エンディング

(2) その他

2. 報告事項

(1) 2024年度下半期の編成方針

3. 事務局報告事項

(1) 視聴者からの声

(2) 次回審議会の議題及び日程

【審議番組について】(「音楽の日2024」)

「音楽のチカラで日本を元気に！」という願いを込めて2011年、東日本大震災の年に始まった夏の音楽特番「音楽の日」。放送14回目を迎えた今年のテーマは「hope! 音楽のチカラ」。

見どころの中継企画では、テーマにちなみ希望の地から“希望のうた”を。恒例の“大合唱企画”には全国の若者242人が参加。昨年話題となった“ダンス企画”には人気グループ18組が集結し熱いダンスバトルを繰り広げた。そして一夜限りの“hopeバンド”が日本に希望を与えた数々の名曲をカバー。

「音楽は希望と共にある」、このメッセージを、被災地、そして日本中へ、8時間の生放送でお届けした。

【委員の主な意見】

- 東日本大震災を機に、歌の力、音楽の力で日本を元気づけるというコンセプトが遺憾なく発揮されていた。過度にエモーショナルな演奏、物語を付加するのではなく音楽を中心としてMCでの説明的な言葉を付加しすぎない工夫も感じられ意義深かった。
- 能登、岩手からの中継が最も心に響いた。地元の人を勇気づけるだけでなく被災地を忘れないというメッセージを視聴者にしっかり届けたと思う。
- イベントをやると人が集まる、それで頑張ろうという気持ちになれるということで、のと鉄道からライブをやったのは非常によかった。能登の復興に向けて、この1月から今までどう動いてきたのかということがよくわかった。
- 能登の中継はメッセージ性のあるいい作りだったので、視聴者の多いゴー

ルデンタイムに生放送してもっと企画を押し出してもよかったのでは。

- SUPER BEAVERと242名の若者による合唱はこの番組のコンセプトの中軸を担っていたと思うし、ダンスバトルのようなポジティブな競争や、切磋琢磨を見せるところもよかった。
- ダンスバトルのときの歓声が、ダンスバトルをしている仲間たちの歓声だった。それが、一緒につくり上げていくんだ、番組を成功させるんだ、というグルーブのある歓声でテレビの歌番組の醍醐味を感じた。
- ダンスバトルでは、いわゆる事務所の垣根を越えてアーティストが集まっていて、去年よりさらに発展させていた。アジアのマーケットで競争が激しくなっている中、ショービジネスの国際競争力を高める意味でも、こうした垣根問題を取り払ってみんなで盛り上がる姿をテレビで示すのはとても大事だ。
- ダンスバトルはスタジオの中で見せているだけだったので、せっかくのパフォーマンスが格好よく見えてこなかった。被災地とか、赤坂のまちとか、ストリートでやったらますます感動を与えたのかもしれない。
- ダンスバトルでは、男性はみんな服装も自由で個性的な一方、女性はどちらかというとみんな同じ、制服のような衣装だったり、振付もみんな一緒に窮屈な印象を受けた。出演者も圧倒的に女性が少なかったのも気になった。
- 子どもや若い人たちを前面に出して、元気な姿を見せているだけでも大きな希望になっていると思うし、番組全体として若い人たちを応援するスタンスがしっかり出ていたのも好感がもてた。
- 8時間全部見ていたが、とても布の少ない衣装の女性バックダンサーが出てくる場面があり、見ていてギョッとした。なぜこういう演出だったのか視聴者にはわからないが、そこだけすごく違和感があった。

- 番組の重要な視点である震災と、その震災に深く関係する衛星をのせたH3ロケットの打ち上げは非常に臨場感があった。ただ三浦大知さんと同じ名前の「だいち」を強調しすぎていて、災害に対して貢献する衛星であることをクリアに述べた方がわかりやすかった。
- 今の復興状況はこうですと提示する番組は多いが、この「音楽の日」は被災地のことを取り上げつつも、もう片方で希望を提示している。まだ大変な中での能登からの中継、種子島中継も打ち上げ失敗したらどうしようとか、苦勞がたくさんあったと思うが、その苦勞を見ている側と共有する方が、より番組への没入感があったのではないかと思った。

【局からの回答】

- 能登の中継はどうしてもライブで伝えたかった。ゴールデンタイムで夜になると鉄道やまちの皆さんの表情も伝わらない。岩手も中高生を夜に中継に出すのはどうかということもあり、収録よりライブで出すためあえて昼間に設定した。
- ダンスバトルは、女性が参加できるものをもっと作っていかないといけない、来年以降はそうだなと思った。外でやるにはいろんな条件があるが、来年以降チャレンジしていければと思う。